

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

飯田高校 杉山昭久先生寄稿 山岳班夏合宿③ (8/4~8/9 : 4泊5日)

農鳥小屋の「名物父ちゃん」は厳しくも優しかった

1時間半ほど休憩。シュラフ等を天日干し。間ノ岳と農鳥岳の中間鞍部にあるこの露营地は、最高のテントサイト。両サイドに間ノ岳、農鳥岳を仰ぎながら顔面に富士山。しかも、今日は貸し切り状態。水場は10分ほど下ったところにあるが、今年では使えないとのこと。一人1リットルまで無料。あとは、1リットル100円での有料という。雨水・・・？

トイレはといえば、昔の山小屋のトイレのまま。木製のキン隠し、下には30センチ幅ほどの波トタントイが置かれ、汚物は父ちゃんがジョロを使って、山斜面に流す方式だ。鍵だっがかかってない。かつては、どこの山小屋でもこの方式だった。昨今、山の環境が叫ばれ、特にトイレについては、厳しく規制され、今や汚物さえ持ち帰らねばならない所もある。そんな時代にあって、この農鳥小屋は昔の貴重・・・？な存在だ。



9:30 西農鳥(3050m)に向け出発。サブ行動なので足並みは軽い。頂上直下でライチョウの親子が6羽ほど遊んでいた。10:20頂上。さらにアップダウンの岩場を抜け、11:15農鳥岳(3025m)山頂。間ノ岳方面から農鳥を經由し、山梨の奈良田へ抜ける登山者が結構やってくる。

40分ほど山頂を堪能し、下山。北岳はガスの中に見え隠れしている。西農鳥からは生徒のみを先行させ、我々3名の顧問団は、北斜面に咲いている植物の学習を兼ね、ゆっくりと下山。今年は夏の花の多くが終わりを告げ、秋の花の代表ともいえるトウヤクリンドウやチシマキキョウ・イワベンケイ等が多く見られる。例年、この時期には白い花を咲かせているハクサンイチゲはすでに花を散らしていた。



テントに戻り、10分ほどすると雷鳴が鳴り響き、土砂降りの雨となった。行動中ではなく濡れなくてすんだ。この雨も2時間ほどでやみ、夕方には青空が戻ってきた。この合宿で唯一1名の2年生女子班員は、一人用テントで寝泊まりしているが、空き時間といえば、数学やら、英語やらの勉強を惜しまない。山にまで来てどうかとは思うが、頭が下がる思いだ。夕闇せまり、眼下には、甲府市内の夜景が輝いていた。

(4日目：農鳥露营地～北岳山荘露营地) 今日のはゆっくりだ。北岳山荘幕营地までの3時間半の行程。

6：10テン場発。それにしても南アルプスの山々はでかい。間ノ岳が覆いかぶさるように迫ってくる。すがすがしい空気を吸いながらゆっくりと高度を稼ぐ。今日も天気は上々。7：20 背後に農鳥岳・塩見岳。西には恵那山がお椀をかぶせた様にくっきりと。その下に伊那谷が広がり、飯田市街地も見ることが出来た。7：50間ノ岳（3189m）大休止。光岳から1人で縦走してきたという初老の男性と話を。大学時代山岳部であったという男性は、



この山域を歩くのは35年ぶり、今日が1週間目だという。今日はこれから北岳に登り、肩の小屋幕営地で一泊するそうだ。懐かしい話をしてくれた。

9：00山頂を後にする。北岳は相変わらずガスの中に見え隠れしている。農鳥までほとんど登山者には会うことがなかったが、間ノ岳まで来ると、今日が金曜日ということもあり、北岳方面からの登山者が多い。10：10中白根。単独でおばあちゃんが山ガールスタイルで登ってくる。大丈夫だろうか。少々心配になる。その後ろに70歳は越えていると思われる3人の女性に間ノ岳山頂はまだかと尋ねられた。

中白根から山荘はすぐそこだ。真下に赤い屋根が見える。10：35山荘着。テントはまだ一張りも張ってない。時間はまだ午前。富士山を正面に、昼食を兼ね、お茶タイムとしゃれる。持参のパウンドケーキ、ドライフルーツ、サラミソーセージ、ゆっくりと時間が流れる。水場は小屋の前から豊富に調達。トイレも近代的なバイオを使って汚物を分解するハイレベルなもの。農鳥小屋とのギャップが大きい。

小屋素泊まり参加の小林Tが、小屋で一緒になったご婦人の話をしてくれた。夫婦で来ているそうで、昨夜は、広河原から登った御池小屋に宿泊。明日は農鳥小屋。「農鳥小屋には乾燥機があるか？」と尋ねられたそう。御池小屋は割と新しい小屋で、施設設備とも充実していて、床暖房・・・？乾燥機まであったとのこと。ここ北岳山荘も少々不満らしい。

小林T、なんと答えてよいか非常に困ったそう。山小屋でビフテキが出る時代。すべてがそうだと思う山に入る人も多いのかも。ご婦人、農鳥小屋の父ちゃんどう対処するのだろうか。周りには一張りも無かったテントも、気が付けば数多くのテントが張られている。いよいよ明日は最終日。下山の日、5日目だ。生徒の気持ちもなんとなく弾んでいる。班長と相談の上、午前3時に出発と決定。

編集子のひとごと

杉山さんから送られてきたファイルを見て、「すごい」と思わず唖った。南アルプスをホームグラウンドとする飯田高校山岳部の面目躍如たる記録だと思った。特に2日目の11時間30分という行動時間には脱帽だ。生徒13名、顧問3名の総勢16名が、5日間トラブルなく動けたというのも、すばらしいことだ。杉山さんからは「適当に編集してください」とあったが、ノーカットで皆さんに読んでもらいたくてほぼ修正なしに送らせていただいた。我が校の山岳部の生徒にも明日のミーティングで読ませようと思った。同じ高校生の活動として、多分、相当いい刺激を受けることだろう。

次号は感動のフィナーレ。最後までぜひじっくりお読みください。（大西 記）